



第108期(平成29年3月期) 第2四半期 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2016年12月5日

目 次

1. 第108期(平成29年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第108期(平成29年3月期)業績見込と今後の施策

- 通期業績見込
- セグメント別の通期見込(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- セグメント別の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 新施設紹介
- 商品紹介
- 当社の基本情報

目 次

1. 第108期(平成29年3月期)第2四半期決算概要
 - 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
 - 連結損益計算書
 - 営業利益の要因分解

第108期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	H27年3月期末 (第106期末)	H28年3月期末 (第107期末)	H29年3月期 (第108期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,315	19,228	20,641	1,413	7.4%
現金預金	5,440	5,601	5,563	▲37	▲0.7%
売上債権	10,355	10,273	11,384	1,110	10.8%
棚卸資産	3,133	3,101	3,207	105	3.4%
その他	385	251	486	234	93.4%
固定資産	10,693	12,611	14,561	1,950	15.5%
有形固定資産	5,376	7,059	8,729	1,670	23.7%
無形固定資産	17	17	15	▲2	▲12.8%
投資その他の資産	5,299	5,534	5,816	281	5.1%
資産合計	30,008	31,839	35,203	3,364	10.6%

第108期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

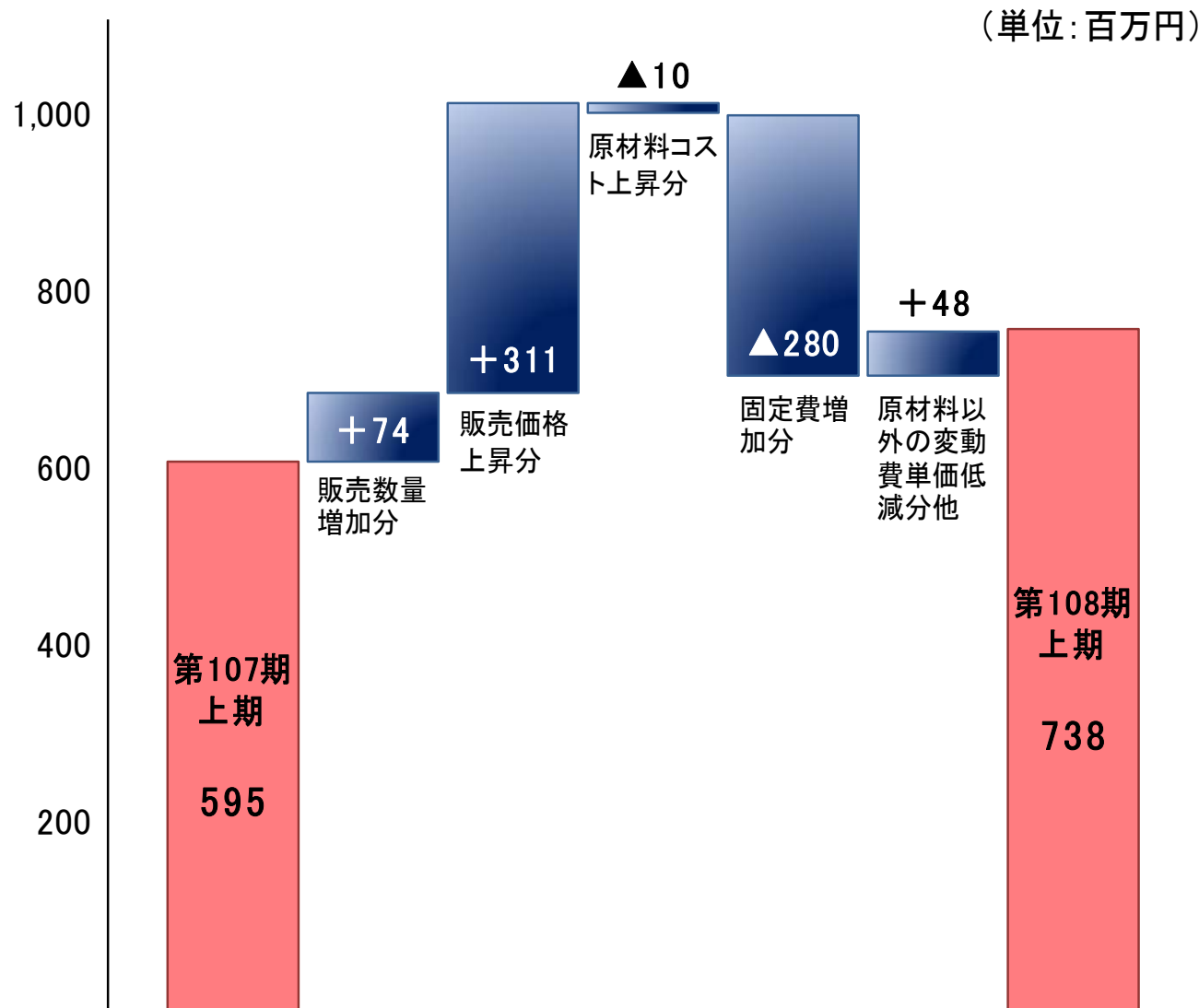
科 目	H27年3月期末 (第106期末)	H28年3月期末 (第107期末)	H29年3月期 (第108期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	11,475	12,882	13,521	638	5.0%
仕入債務	6,208	6,045	6,838	792	13.1%
短期借入金	3,250	3,220	3,230	10	0.3%
その他	2,017	3,617	3,452	▲164	▲4.5%
固定負債	2,041	1,646	3,779	2,132	129.5%
長期借入金	450	233	2,204	1,971	845.4%
その他	1,591	1,413	1,574	161	11.4%
負債合計	13,517	14,529	17,300	2,770	19.1%
純資産	16,491	17,310	17,903	593	3.4%
負債及び純資産合計	30,008	31,839	35,203	3,364	10.6%

第108期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	H27年3月期 (第106期) 第2四半期	H28年3月期 (第107期) 第2四半期	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,418	15,054	15,624	570	3.8%
売上原価	13,780	13,004	13,205	200	1.5%
売上総利益	1,638	2,049	2,419	369	18.0%
販売費及び一般管理費	1,453	1,454	1,680	226	15.6%
営業利益	185	595	738	143	24.1%
営業外収益	95	114	95	▲19	▲17.0%
営業外費用	31	36	84	47	132.1%
経常利益	249	673	749	76	11.3%
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	—	—	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	249	673	749	76	11.3%
税金費用他	68	210	231	21	10.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	181	463	518	54	11.8%

第108期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



当第2四半期は機能性材料の受注が大きく伸び、軽包装材料と産業資材の減収を補い増収となった。出荷数量の増加による増益額74百万円に加えて、平均販売単価上昇による増益額が3億11百万円に上った。

費用面においては、原材料価格の低位安定により材料費が僅かな増加に抑えられ、電力・燃料費その他の変動費が48百万円減少したが、掛川工場WEST及びR&Dセンターの竣工並びに稼働に伴う償却費その他の固定費が2億80百万円増加したことから、営業利益は前年同期比で1億43百万円の増益となった。

目 次

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況（軽包装材料、産業資材、機能性材料）

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

(単位：百万円)

科目／セグメント	H27年3月期 (第106期) 第2四半期	H28年3月期 (第107期) 第2四半期	H29年3月期 (第108期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,418	15,054	15,624	570	3.8%
軽包装材料	7,160	7,277	7,034	▲243	▲3.3%
産業資材	3,748	3,710	3,521	▲188	▲5.1%
機能性材料	4,307	3,830	4,806	975	25.5%
その他	202	235	263	27	11.7%
営業利益	185	595	738	143	24.1%
軽包装材料	197	399	432	32	8.2%
産業資材	▲23	109	▲96	▲206	▲187.5%
機能性材料	▲4	52	374	322	616.6%
その他	16	33	27	▲5	▲16.9%

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

第2Q売上高
3,131百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 国内市場は成熟、海外市場に期待

医薬品・医療器具関連

第2Q売上高
1,175百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

第2Q売上高
644百万円



大型製袋機導入により本格的に生産を開始し、順調に売上伸長中。

市場環境

- 容器はボトルから詰替え用パウチへシフト

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは成長期待

精密機器関連・その他

第2Q売上高
2,082百万円



「エアロテクト」をはじめとするエアー緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エアー関連製品は競合少ない

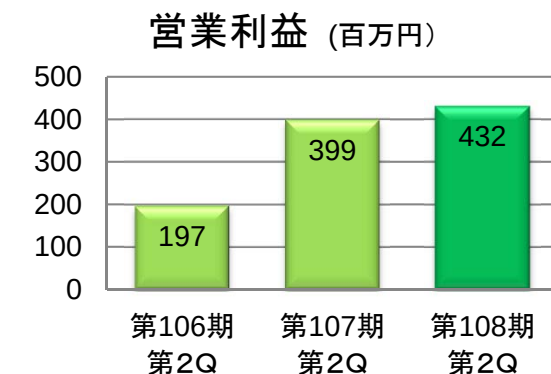
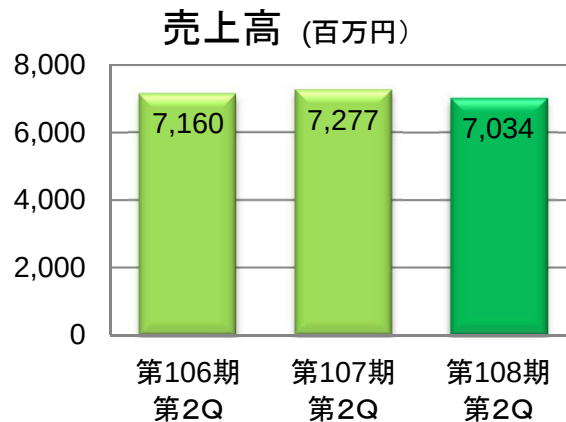
収益性・成長性

- 「エアロテクト」は成長鈍化
- 災害時用エアーマットは潜在需要大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 7,034 百万円 （前年同期比 3.3% 減）
- 営業利益： 432 百万円 （前年同期比 8.2% 増）

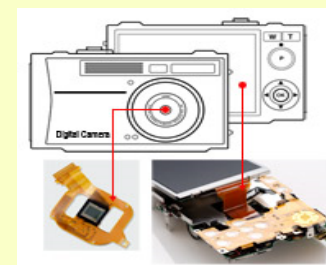
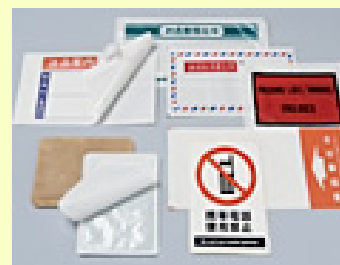
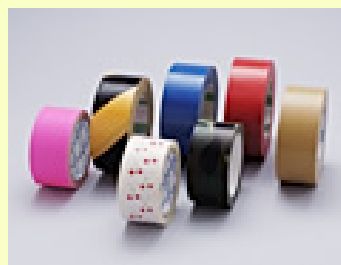


- 電子レンジ対応食品包材「レンジD○!」は堅調。清涼飲料用パウチも、新たに受注したゼリー飲料用が天候不順の影響を受けず、増収。
- イージーカットフィルム「ポロソ」をはじめ他の食品用包材は、個人消費の低迷を受け、減収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」の拡販により、他の商品の減収を補い増収。
- エアー緩衝材「エアロテクト」は、主力ユーザーの生産計画下方修正の影響を受け、減収。
- 原材料コスト低減と経費削減により増益基調を維持。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

第2Q売上高
854百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープは市場が縮小傾向

ラミネート布・ 布粘着テープ

第2Q売上高
1,117百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

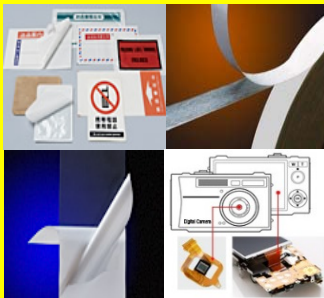
- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

第2Q売上高
1,549百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

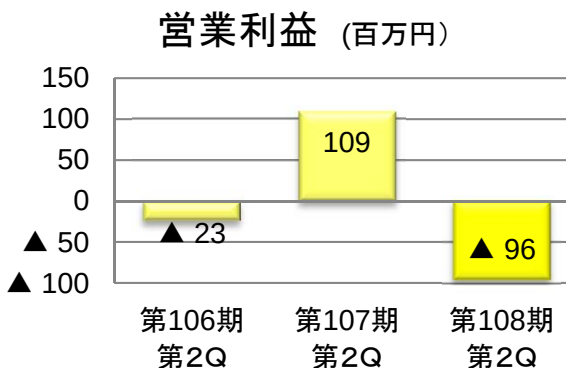
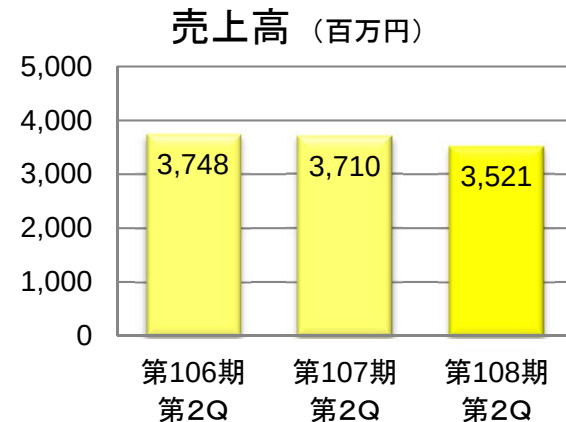
収益性・成長性

- 一般用途は収益性低下
- 電材用工程紙は市場拡大見込

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,521 百万円 （前年同期比 5.1% 減）
- 営業利益： ▲96 百万円 （前年同期比 187.5% 減）



- テープ用基材については、建設・物流関係が停滞気味であったことからテープ関連需要が伸び悩み、円高による海外製テープ流入の影響も加わり、減収。
- 剥離紙については、自動車関連分野は堅調。その他の分野では、海外製両面テープによる国内市場の侵食や一部ユーザーの在庫調整の影響を受け、減収。
- IT関連分野に使用される電材用工程紙は、韓国ユーザーからの受注が低迷しており、剥離紙全体で減収。
- 売上が減少するなか掛川工場WESTの竣工及び稼働により償却負担が新たに発生し、大幅減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

第2Q売上高
1,125百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

第2Q売上高
821百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 液晶テレビの導光板用は需要減少
- LCD関連は需要はあるが競争厳しい

SAT・ 粘着加工品

第2Q売上高
2,859百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

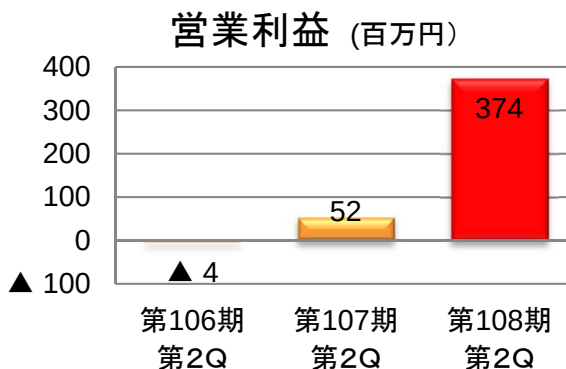
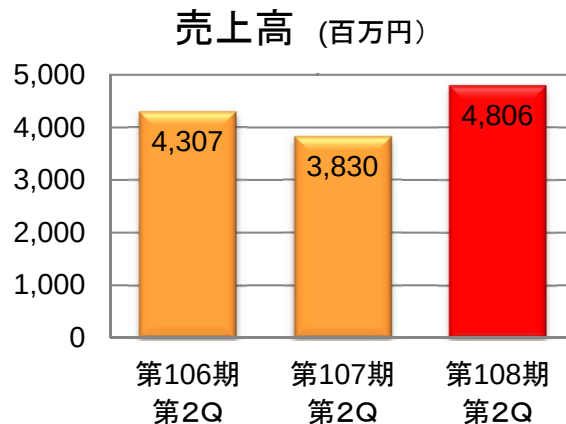
収益性・成長性

- タッチパネル市場は今後も成長が期待
- 高機能ディスプレイ対応品の需要増加

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 4,806 百万円 （前年同期比 25.5% 増）
- 営業利益： 374 百万円 （前年同期比 616.6% 増）



- 「サニテクト」については、光学分野での苦戦が続くなか、剥離フィルムのないPET基材の「NSタイプ」の受注が回復し、増収。
- 「PAC」については、液晶テレビ関連分野で受注が回復するも、ユーザーの在庫調整の影響を受け、減収。
- 「SAT」については、タッチパネルの光学部材用及び液晶テレビの偏光板用の受注が増加。韓国・台湾への輸出も好調で、大幅増収。
- 原材料コストの低位安定と受注増加による生産効率改善により大幅増益。

目 次

3. 第108期(平成29年3月期)業績見込と今後の施策

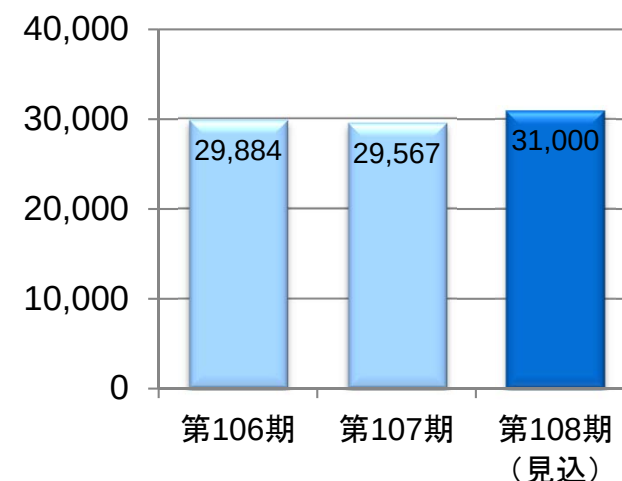
- 通期業績見込
- セグメント別の通期見込(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- セグメント別の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第108期業績見込と今後の施策：通期業績見込

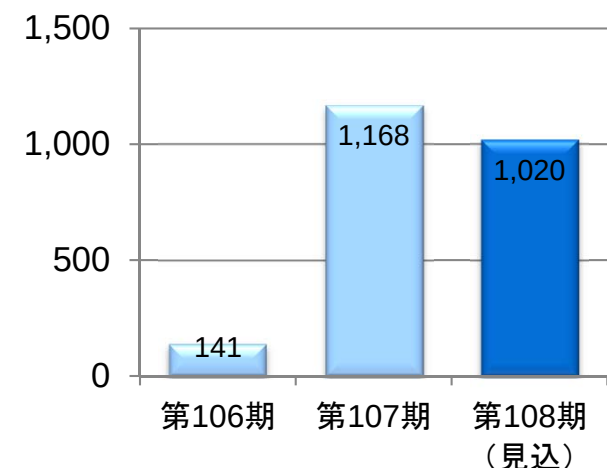
(単位: 百万円)

科目／ セグメント	H27年3月期 (第106期)	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期) (見込)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,884	29,567	31,000	1,432	4.8%
軽包装材料	13,987	14,071	13,500	▲571	▲4.1%
産業資材	7,708	7,458	7,400	▲58	▲0.8%
機能性材料	7,809	7,503	9,600	2,096	27.9%
その他	378	533	500	▲33	▲6.3%
営業利益	141	1,168	1,020	▲148	▲12.7%
経常利益	85	1,357	1,000	▲357	▲26.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	51	898	671	▲227	▲25.3%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



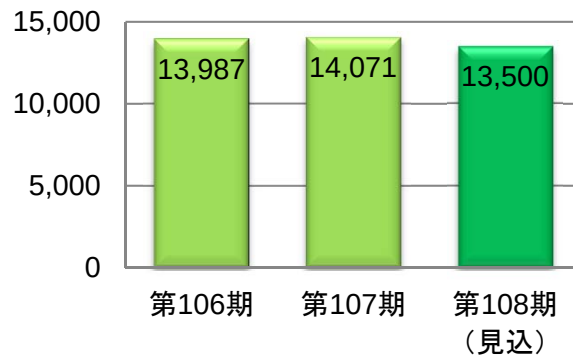
第108期業績見込と今後の施策：セグメント別の通期見込（軽包装材料）

軽包装材料

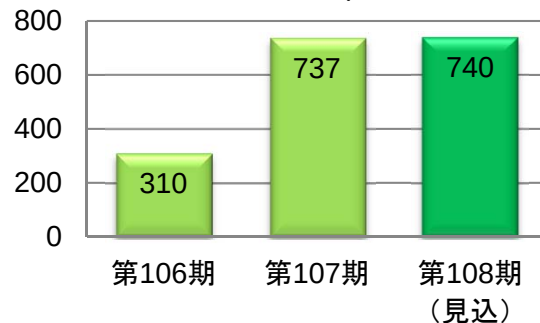
【第108期見込額】

- 売上高：13,500 百万円（前期比 4.1% 減）
- 営業利益：740 百万円（前期比 0.3% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジD○！」は受注が堅調で増収の見込み。清涼飲料用パウチも、ゼリー飲料用が冬場の落ち込みを補い、増収が期待。「ポロソ」は前期並みを見込む。
- 医薬・医療用包材は前期並み、洗剤・トイレタリー用包材は増収を見込むが、エア緩衝材については、「エアロテクト」の受注回復が見込めず、減収の見込み。
- 原材料の低位安定と押出しラミネート加工品のコスト削減等により、通期営業利益は前期並みを見込む。

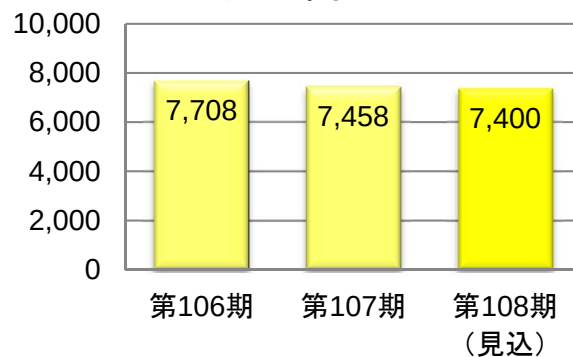
第108期業績見込と今後の施策: セグメント別の通期見込(産業資材)

産業資材

【第108期見込額】

- 売上高 : 7,400 百万円 (前期比 0.8% 減)
- 営業利益 : ▲340 百万円 (前期比 243.9% 減)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



- 掛川工場WESTへの生産銘柄移管は大ロットのテープ用基材から行い、稼働率向上と生産性改善を進める。
- 電材用工程紙の受注回復は年明け頃となり、減収を見込むが、新工場立ち上げに伴う販促強化で、売上高の落ち込みは最小限にとどめる予定。
- 売上を前期並みとするも、下期に設備の償却が本格化するため、通期で大幅な営業損失が見込まれる。

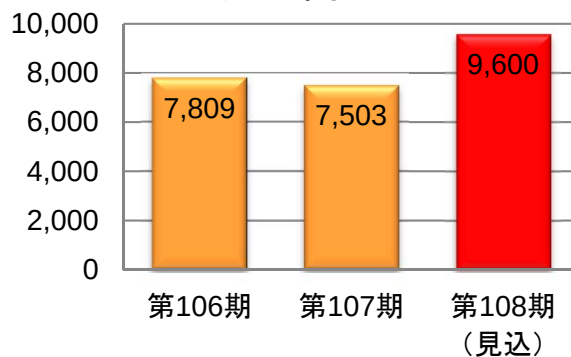
第108期業績見込と今後の施策：セグメント別の通期見込（機能性材料）

機能性材料

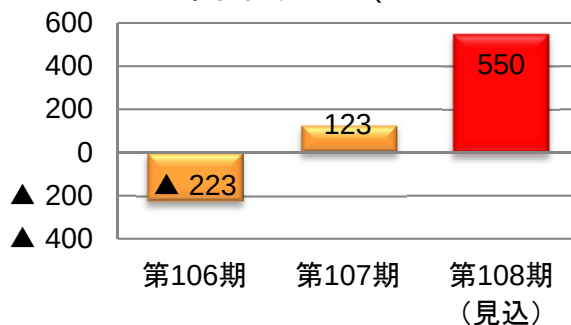
【第108期見込額】

- 売上高： 9,600 百万円 （前期比 27.9% 増）
- 営業利益： 550 百万円 （前期比 347.1% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 液晶テレビ用の表面保護フィルムは、国内向け・海外向けとも、上期の売上水準が当面持続すると見込まれ、前期比で大幅増収を見込む。
- タッチパネル関連部材用の表面保護フィルムについては、上期は好調であったが、中国の旧正月（春節）を節目に受注状況が変化する可能性大。
- R&Dセンターの償却が下期に本格化するため、負担割合の高い当セグメントの利益率は上期の水準から低下の見込み。

第108期業績見込と今後の施策：セグメント別の施策（軽包装材料）

軽包装材料

■ 今後の施策

- 電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」をはじめ、当社が強みとする各種製品を継続的に改良し、その分野におけるシェア拡大によって収益性向上を図る。
- 静岡・奈良両工場で取得したFSSC22000を武器に、大手食品メーカーだけでなく、大手包装材料メーカーからの委託加工の取り込みにも注力する。
- 当社が強みとする商品について、海外市場開拓に関する調査、検討を進める。
- 原材料の海外調達を推進し、価格競争力を強化する。

第108期業績見込と今後の施策: セグメント別の施策(産業資材)

産業資材

■ 今後の施策

- 大ロットの剥離紙を中心に新規受注と他工場から掛川工場WESTへの移管を進め、同工場の強みを活かせる生産シフトに移行することによって、全体の収益力を引き上げる。
- 老朽設備の統廃合を進め、4カ所に分散する生産体制を再構築する。
- 価格競争力のある新タイプの電材用工程紙の開発を加速し、この市場におけるシェア拡大を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の商品化実現により、成長市場への商品展開の推進と低収益構造からの脱却を図る。

第108期業績見込と今後の施策: セグメント別の施策(機能性材料)

機能性材料

■ 今後の施策

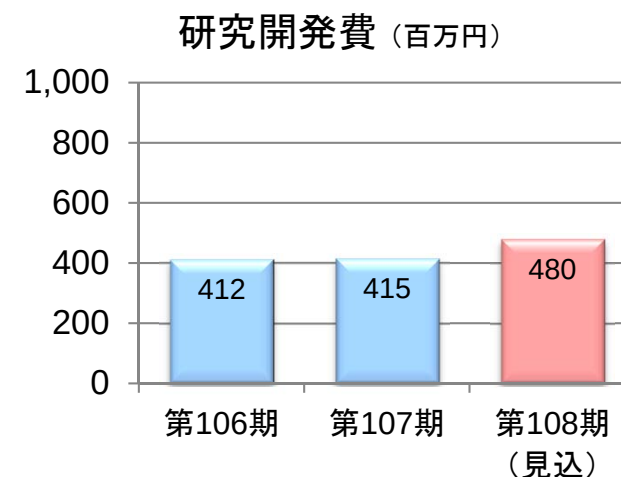
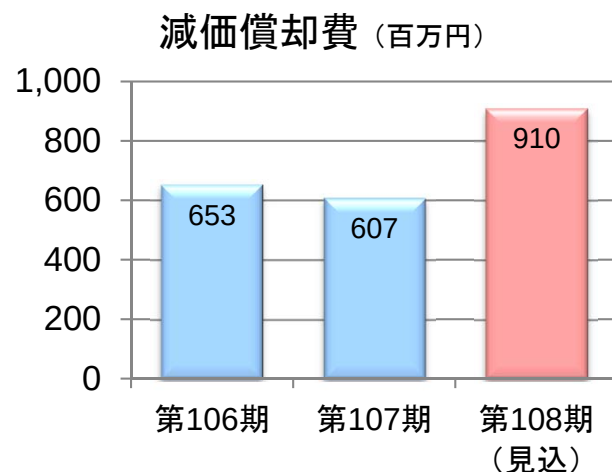
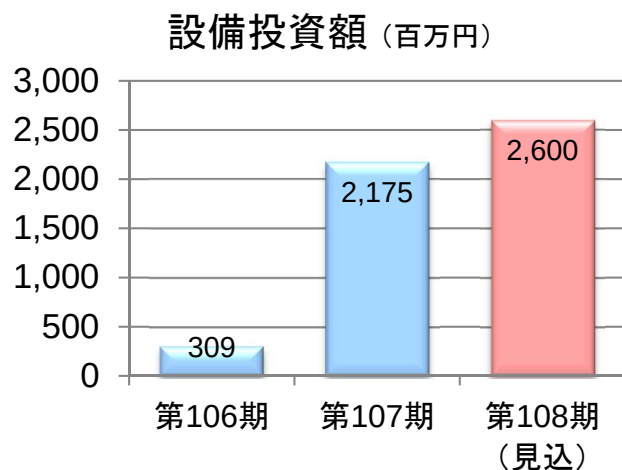
- 灿櫻(上海)商貿有限公司及び当社台北営業所による中国及びその周辺国における長鼎製品の販売スキームを計画通り実行する。
- 研究開発拠点(R&Dセンター)に、新たな試験機、検査機等を順次導入し、顧客対応力の強化と開発期間の短縮を図り、受注増につなげる。
- 掛川工場が抱える液晶テレビ用表面保護フィルム案件を早期に長鼎電子材料に移管し、海外向け商品の収益性向上を図る。
- 表面保護フィルム以外に、当社の成膜技術を活かすことのできる分野への商品展開を進める。

第108期業績見込と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位:百万円)

科 目	H27年3月期 (第106期)	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期) (見込)	備 考
設備投資額	309	※ 2,175	2,600	掛川工場WEST・R&Dセンター建設費、製袋機他
減価償却費	653	607	910	掛川工場WEST・R&Dセンター竣工・稼働に伴い増加
研究開発費	412	415	480	R&Dセンター関係償却費の増加、試作費・試験費の増加

※設備投資額は無形固定資産を含む



目 次

4. 参考情報

- 新施設紹介
- 商品紹介
- 当社の基本情報

参考情報: 新施設紹介

■ 掛川工場WEST ・ R&Dセンター



- 掛川工場WESTは、産業資材事業の中核工場として、平成28年9月に稼働を開始しました。
- R&Dセンターは、研究開発機能の強化を図るため、静岡市所在の研究所を平成28年10月1日付で掛川工場WEST建屋内に移転し、当名称に改称しました。

所在地：静岡県掛川市満水1000番6号
敷地面積：17,020m²



参考情報: 商品紹介 その1

■ イージーカットフィルム「ポロソ」

特徴

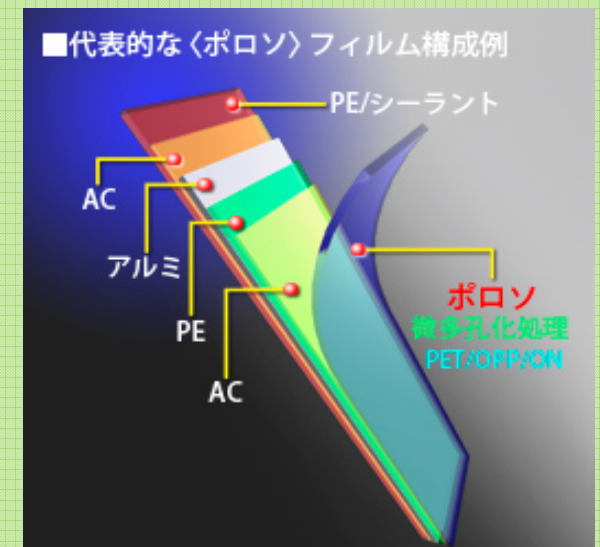
- ベースとなるフィルムにポロソ加工（微多孔化処理）を行うことによって、ノッチがなくても、縦・横・斜め、いずれからでも手でまっすぐに引き裂くことができる。

用途

- 主にインスタントコーヒーなどの粉末飲料用のスティック包材に利用される。

販売状況

- 子会社である東邦樹脂工業(株)が製造し、当社グループで販売。
- 当社ヒット商品「レンジD○！」に迫る売上規模に成長。



参考情報: 商品紹介 その2

■ 各種エア緩衝材

● エアロテクト

衝撃に弱い製品の包装に最適、様々な形に対応



● ガードボックス

重要または壊れやすい箇所を部分的にガード



● エアクッション

ひび割れ等に弱い製品を上下にクッション



● サンネージ

輸送時の積荷を安定させ荷崩れ等を防ぐ



- 当社独自の逆止弁により空気が漏れにくく、長期にわたり緩衝性能を維持
- パルプモールドや発泡スチロールに比べて、衝撃吸収力に優れる
- 使用直前に空気を注入するため、保管場所を取らず省スペース化に貢献

参考情報: 商品紹介 その3

■ N I N J A P A C K (衣類圧縮袋)

訪日外国人旅行者のニーズを基に既存商品をリニューアル



- 道具を使用せず、手で押すだけでかさ張る衣類を簡単に圧縮
- ダブルチャックと逆止弁の採用により、圧縮状態が長時間持続

参考情報: 当社の基本情報

商 号
証 券 コー ド
設 立
代 表 者
事 業 所

株式会社 サンエー化研
4234 (JASDAQ スタンダード)
1942年9月 (昭和17年9月)
代表取締役社長 藤岡 宣隆
本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋、静岡
【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川 (2カ所)、奈良
野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)
【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)
研究開発拠点 : 掛川

資 本 金
事 業 内 容
連 結 従 業 員 数
決 算 期

21億76百万円
高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
667名 (平成28年9月30日現在)
3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(12月5日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp